

地域の有志による実行委員会で里地里山型エコツーリズムを推進		
28. 春蘭の里【石川県能登町】		
範 囲	能登半島の北東部に位置し、山田川上流域の山あいにある能登町宮地、鮭尾などの集落一帯	
所 在 地	石川県能登町宮地、鮭尾、柏木、太田原、山田、本木、瑞穂、武連、柿生	
位 置	北緯 37° 18' 11" 東経 137° 1' 41"	
生 物 地 理 区 分	コナラ林(西日本)	
環 境 要 素	二次林(), 水田、畑、小川・水路、ため池、社寺林、人工林、その他	
自然条件	地 形	能登町は外浦の豪壮な海食景観に対して、富山湾に面する内浦の柔和な沈水景観は、九十九湾や遠島山など好風景を現している。内陸部は起伏の小さな丘陵性の地形が広がる。春蘭の里付近はなだらかな丘陵地帯で標高 200m前後の平坦面を持つ海岸段丘が発達している。
	植生・生物等	山菜やきのこなど恵み豊かな山、川、農地と生活の営みに育まれた二次的自然が凝縮されている地域。地域の里山には春蘭が自生し、「生きた化石」と呼ばれるムカシトンボ、ゴリ、ヤマメなどが生息している。
		 <p>撮影時期：2008年 8月 黒瓦と漆喰が美しい農村住宅と水田。日本の原風景が広がる。</p>
社会条件	人口(市町村)	19,575人(農家率 23.5%、副業的兼業農家が多い) 能登町のデータ(H22年)
	土 地 利 用	町総面積の 8.0%が田畑、75.1%が山林である。 能登町のデータ(H22年)
	歴 史 ・ 文 化	能登町では、自然の恵みへの感謝の気持ちや神への信仰心が篤く、あばれ祭をはじめとする祭りが各地区で盛んに行われているほか、国指定重要無形民俗文化財のアエノコトやアマメハギなどの民俗風習が今も受け継がれている。また、国指定史跡である縄文時代の真脇遺跡など、旧石器、縄文、弥生時代の遺跡が多く残っている。
法指定、行政による評価の状況	自然環境・景観保全や国土保全に関わる地域指定等	砂防地指定
	すぐれた自然、景観、伝統文化などとしての選定	財団法人都市農山漁村交流活性化機構：「ふるさと体験ルート開発・モデル地区(全国5箇所)」に選定(H15)

取組主体	タイプ	連携組織: 多様な主体の連携組織による取組		
	主な主体	名称	概要	
		春蘭の里実行委員会	豊かな自然を最大限に活かした村づくり・村おこしを目的に、地域の異業種7名で結成。	
経緯	能登半島の先端部にある宮地、鮭尾集落は、「10年後には農家が半減するのではないか」という、深刻な過疎化問題をかかえていた。そんな中で、それまで当りに考えていた、山菜、きのこ採りが楽しめる山々に囲まれ、集落の中心には川が流れる、そんな自然環境の価値に気がつき、この地域の山に自生する「春蘭」を軸とした村づくり、村おこしに取り組み始めた。平成8年、異業種につく7名で「グリーンストック 水と緑を後世に引き継ごう」をテーマに「春蘭の里実行委員会」を結成した。			
支援措置	該当なし			
取組の目的・目標	(1)地域の交流人口が増えることによる地域の活性化と、春蘭の里の活動により高齢者の生きがいづくりの促進を図る。(2)故郷のすばらしさを再認識し、また、農村の生活を体験することで都市住民が故郷を感じられる環境を提供する。(3)「春蘭の里実行委員会」を柱に世代を超えた地域活動を促進し、住民一人一人が誇りに思える故郷をつくる。			
取組分野内容	農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化	住居の建築材は地域産のものを現在も使用している。能登町農林産物処理加工施設があり、山菜の加工・販売や地域食材を活用した食事の提供を行っている。減農薬、はざぼし米の生産、地域で栽培した酒米と地域の水を使用した清酒「春蘭の里」など、H8年から特産品づくりを進めている。H13年からキノコ山保全活動と称した里山保全活動を実施。間伐材は、薪や炭に使用。キノコ山は観光資源となっている。		
	バイオマスなど新たな資源としての利用	【対象となる資源】 樹木、竹、その他(コケ玉など) 地域の里山に自生する春蘭を年間通じてハウスで栽培し、鉢植えとして販売するほか、摘み取った春蘭の花を和菓子屋に出荷している。地域にある「くろもじ」で作った箸や、竹で作った器や地域に住むふるさとの匠(県認定)がつくるコケ玉などを製作し、地域の農家民宿で使用、販売している。		
	環境教育や自然体験、エコツアーの場としての利用	自然観察会	昆虫や植物の観察会	
		環境教育・学習活動	家族向け自然学校の開校、修学旅行や教育旅行の受け入れ	
		里地里山体験・環境保全	ボランティア、企業、学校による里山保全活動の実施	
		農林業体験活動	農林業、生活の営みにより育まれた里山の自然を活用した体験学習、環境教育を実施。田植え体験、精米体験、旬の食材の収穫体験等	
		エコツアー	農家民宿や廃校をリニューアルした宿泊施設で、県内外の学校の修学旅行・教育旅行の受け入れや、農村生活体験プランを提供。平成22年度には、中国からの団体や国際会議のエクスカージョンも受け入れた。	
	その他			
	野生動植物やその生息地の保全・管理	ホテルが生息する水路の整備を実施。 キノコが生える里山環境を保全するため、モニタリング調査や里山整備を行っている。		
	地域の良好な景観の保全・修復	里山景観を保全するため、県の「いしかわ景観総合条例」に基づく景観形成重点地区への指定へ向けて調整中。		
里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対象	生活行事	【文化財指定】	
		資源利用技術	キノコ、山菜、野菜などの貯蔵の知恵が継承され、1年を通して地元産の食材が農家民宿で提供されている。	
		その他		
みのむしまつり(江戸時代から地域に残るお祭り。稲わらで蓑など民芸品をつくり身につけて踊る。60年近く途絶えていたが、4年前に復活。民芸品の技術の伝承にも繋がっている。) 平成22年、インターンシップで春蘭の里を訪れていた東京の専門学校生の協力を得て、キリコ祭りが20年ぶりに復活した。				

連携・協働	農村ボランティアの受け入れ、企業が学校などの参画による里山整備 林野庁の事業の実践地域に採択され、金沢大学の研究員の指導のもとでのキノコ山の調査 大手旅行会社と連携した旅行客の受け入れ体制の整備 等	
		
撮影時期：2008年 9月 地域を流れる川では、子どもたちが泳いだり、魚を捕ったり、昔ながらの光景が見られます。	撮影時期：2010年7月 県外の小学生が訪れ、キノコ担ぎを体験。	
景観としての 利用・評価	観光パンフレット等に写真が使用されている	
取組の特徴	<p> <u>里山の地域資源を活用した活動で、県内での地域おこしの先駆的事例になっている。</u> 本地域では、「何もないのが良いところ」を強みとし、地域に自生する春蘭をテーマに、平成8年から里山を生かした環境学習、体験学習の受け入れを実施。地域の有志で結成された「春蘭の里実行委員会」が中心となってグリーン・ツーリズムを推進している。春蘭は人が管理していない山には自生しないことから、「里山度のバロメーター」と称し、里山里海の恵み、大切さ、管理の重要性などを実感してもらうプログラムを行い、県内外の家族や小学生、専門学校生や高校生が学びに訪れている。 また、里山を適切に整備することでキノコ山として保全し、それらのキノコや山菜、伝統文化など里山の地域資源を活用した地域おこしに結び付けている。 当初2集落のエリアだった取組も、現在では12集落に広がっている。 </p>	

【参照資料】

能登町 HP (<http://www.town.noto.lg.jp/www/index.jsp>)